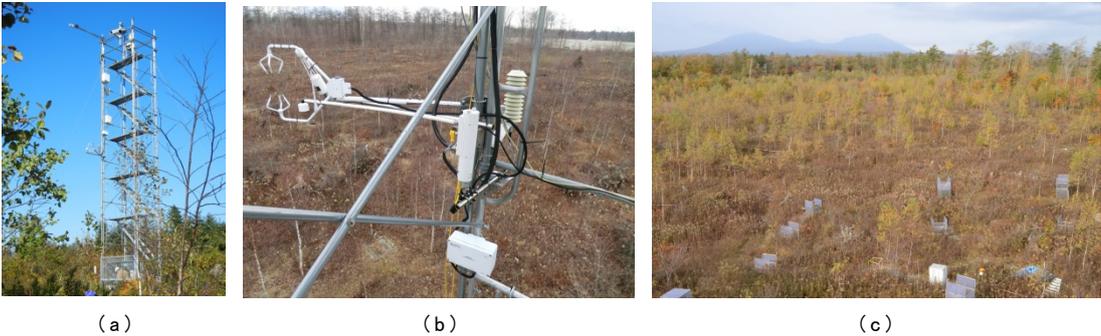


## 観測施設情報

施設名	国立環境研究所 地球環境研究センター 苫小牧フラックスリサーチサイト		
施設写真	 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>(a)</span> <span>(b)</span> <span>(c)</span> </div>		
施設情報	所属先	北海道大学 大学院農学研究院 農林環境情報学研究室 国立環境研究所 地球環境研究センター	
	施設所在地	北海道苫小牧市苫小牧国有林 1198 林班 (北海道森林管理局 胆振東部森林管理署 苫小牧森林事務所管内)	
	問い合わせ先	029-850-2517 (国立環境研究所 地球環境研究センター)	
	URL	<a href="http://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/flux/tomakomai_n.html">http://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/flux/tomakomai_n.html</a>	
施設概要	<p>苫小牧フラックスリサーチサイトでは樽前山の裾野に広がる約 100ha のカラマツ植林地 (国有林) において、2000 年から CO<sub>2</sub> フラックス観測をはじめとする森林の生態系炭素循環機能に関する総合的な観測研究が行われていましたが (<a href="http://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/flux/tomakomai_o.html">http://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/flux/tomakomai_o.html</a>)、2004 年 9 月の台風により、サイトの約 90% の森林が風倒壊被害を受け、従来の観測は継続できなくなりました。風倒跡地ではエゾイチゴなどの灌木と草本の優占する植生を経て、10 年後の現在はシラカンバの森林へと植生遷移が進んでいます。このような大規模攪乱は林内環境や植生に大きな変化をもたらし、森林生態系は CO<sub>2</sub> の吸収源から放出源に変化することが知られています。さらに今後、地球温暖化の進行にともなって森林攪乱の規模が大きくなることが懸念されています。そこで、森林攪乱とその後の植生の遷移過程における炭素蓄積量や炭素収支の変化とそのメカニズムを解明するため、2005 年から CO<sub>2</sub> フラックス観測と植生調査を継続しています。</p>		
施設・測器	観測塔 (12m) (写真 a)、エンクロズド CO <sub>2</sub> ・エネルギーフラックス測定装置 (写真 b)、CO <sub>2</sub> フラックス測定用自動開閉チャンバー群 (写真 c)		
観測項目	一般気象、CO <sub>2</sub> ・水蒸気・熱収支、土壤環境 (土壤呼吸、地温、土壤水分量)、植生、バイオマス、葉面積指数、分光反射特性等		
観測データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2000 年から 2004 年 (風倒前) のフラックス、気象、分光放射量、植生指標データは国立環境研究所地球環境研究センターのホームページ上で入手できます。 (<a href="http://db.cger.nies.go.jp/portal/data/index">http://db.cger.nies.go.jp/portal/data/index</a>) (注)</li> <li>・風倒前のカラマツ林、および風倒跡地植生のフェノロジーをとらえた画像も公開されています。 (<a href="http://db.cger.nies.go.jp/gem/warm/flux/remo.html">http://db.cger.nies.go.jp/gem/warm/flux/remo.html</a>) (注)</li> </ul> <p>上記データを閲覧・利用したい場合にはホームページ上の連絡先にご連絡下さい。</p>		
共同利用	サイト内への観測測器の設置等、外部利用も受け付けています。施設利用希望者は、所内担当者までご連絡下さい (上記「施設情報」URL 参照)。		

(注) ページが閲覧できない場合には、上記「施設情報」内の URL をご参照下さい。 2015 年 7 月 7 日

